

## SR-S724TC1 V12.01 変更内容一覧

### □機能追加

No.	項目	内容
1	ARP認証機能改善	(1)ARP認証に失敗した端末(不正要求端末)がポートムーブした際に、妨害フレームの出力先ポートを端末が移動したポートに変更する。 (2)ARP ReplyフレームをARP認証の対象としないよう変更する。 (3)認証保持時間内にARPフレームを受信した場合の妨害フレーム送信回数を1回から3回に変更する。 (4)同一の送信元IPアドレスのARPフレームは1秒間に1回しか認証しないが、送信元IPアドレスが変化した(複数回変化し元に戻った場合も)場合も含めて、同一送信元IPアドレスのARPフレームを受信した場合には認証しない。

### □修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V10.01～V12.00	sshでログインして最初にTABキーを入力すると、コマンド一覧ではなくコマンド説明あるいはコマンド形式が表示される場合がある。
2	V10.01～V12.00	CFIにピリオドで終わるファイル名が存在する場合、実体のファイル名とdirコマンドでの表示とが異なる。
3	V10.01～V12.00	空き容量の足りないCFIに構成定義をcopyした場合に、エラーメッセージが出力されない場合がある。
4	V10.01～V12.00	バックアップポート機能(ether type backup)、またはバックアップリンクアグリゲーション機能(linkaggregation type backup)を使用した場合に、vlan forwardコマンドにて静的に登録されたFDBエントリの設定状態が異常となる場合がある。
5	V10.01～V12.00	sshでの自動ログアウトやコンソールログインによる強制ログアウト後に、再びsshでログインすると接続が拒否されたりログインできてもコマンド実行するとコマンドが終了しない場合がある。ssh接続が拒否された場合はsshにて再ログインすれば問題ない。sshログイン後のコマンド実行が終了しない場合は、装置再起動するまで継続し、この間telnetやftpでの接続、WEB設定操作はできない。
6	V12.00	VLAN ID 4094においてDHCPスヌープ機能を定義しても有効とならない。
7	V11.00～V12.00	ループ検出によるポート遮断モードが誤って解除される場合がある。
8	V10.01～V12.00	あて先MACアドレスが自装置MACアドレス以外のUNICASTフレームをL3転送する場合がある。
9	V10.01～V12.00	pingの実行結果において、timeが負の値になり、また、round-tripに非常に大きい値が表示される場合がある。
10	V10.01～V12.00	FTPサーバ機能において、未サポートコマンドを受け付けると、次に受け付けたコマンドが必ず失敗する。
11	V11.00～V12.00	IPv6 staticホスト経路がオンライン状態を維持し、定義変更がないにも関わらず、装置内の経路テーブルから削除される場合がある。
12	V12.00	認証端末にて正しいユーザID/パスワードを入力しているにも関わらず、Web認証が失敗してしまう。